

分科会 17

IPS：個別就労支援 ～リカバリーにおける働くことの意味～

(IPS = 個別就労支援プログラム)

香田真希子 (目白大学)
本多俊紀 (NPO 法人コミュネット楽創)
池田真砂子 (特定 NPO 法人ゆるら)
山本 大伸 (IPS 利用者)
K・A (IPS 利用者)
石崎秀 (IPS 利用者)

目的

「リカバリーにおいて“働く”ことは、重要な位置をしめる」と言われていますが、実際自分にとって「働く」ということはどんな意味を持つのか、そのメリットやデメリットは…など、改めて感じ、考え、シェアしあうことを目的に企画いたしました。

1. オリエンテーション

2. リカバリーにおける働くことの意味とは

働くのは誰のためか、何のために働くのか、参加者の方も交え意見交換を行いました。また、働くことが、リカバリーの重要な要素につながっていくこと、希望が大切であること、自分の人生の主人公は自分であるということを再確認できることなどが語られました。

3. 体験談

IPS のユーザー3名より、職業経験について・働く中でよかったこと・大変なこと・どのような工夫をしているか・大変な中働き続けるのはどうしてかなど、体験を通したお考えや気持ちをお伺いしました。

4. ワーク

自分にとっての働くことの意味を振り返り、2人組でシェアしあいました。お互いの「働くことの意味」に耳を傾けることで、新たな気づきが生まれたり、自分の中の希望を確認できる機会となりました。

今回もたくさんの質問やご意見が寄せられる熱気あふれる分科会となりました。「自分らしく働く」ことに取り組む方、応援なさる方が増えてゆくことを願って、微力ながら実践と啓発を継続していきたいと感じました。